

第 10 回アジア地域原子力協力国際会議の結果について

平成 11 年 3 月 19 日

国際協力・保障措置課

1. 主催等

主催：原子力委員会

後援：科学技術庁、外務省、文部省、厚生省、農林水産省、通商産業省

協賛：日本原子力研究所、核燃料サイクル開発機構、国際協力事業団、
(社)日本原子力産業会議、(社)日本電機工業会

2. 開催日時、場所

3 月 10 日 (水) 本会議 於：日本海運倶楽部

[	3 月 8 日 (月)	準備会合	於：科学技術庁第 1、第 2 会議室
	3 月 11 日 (木)	作業部会	於：赤坂プリンスホテル別館会議室
	12 日 (金)	〃	

3. 本会議プログラム及び各国参加者

参考参照

4. 基調テーマ「アジア地域協力の新しい展開」

5. 本会議結果

本会議における各国代表の講演概要については別添 1 のとおり。

また、作業部会において、本会議のサマリーをとりまとめたところ別添 2 のとおり。

6. 本会議傍聴者

約 280 名 (政府 22 名、産業界 159 名、研究機関 47 名、大学 11 名、
一般公募 14 名、報道 24 名、在京大使館 4 名)

第10回アジア地域原子力協力国際会議 各国発表要旨

○オーストラリア

2005年の運転開始をめざす新しい研究炉プロジェクトの順調な進展状況、安全規制行政を一本化する初めての機関としてオーストラリア放射線防護原子力安全庁（ARPANSA）が本年2月に設立されたことを報告。原子力平和利用を推進するアジア地域協力については、体制再編の日本提案を原則支持しつつ、フォーラムを実効的な協力活動の中心に据えるさらに強固な協力の仕組みの必要性を提言。

○中国

原子力発電及び核燃料サイクルの開発状況、及び核融合、高温ガス炉といった新技術開発について報告。また、中国原子能機構（CAEA）を中心とする原子力機関の組織改革にも論及。アジア地域原子力協力については、中国国内における協力の成果等を紹介。さらに、平和利用推進や技術レベルの向上といった地域協力の目標を確認しつつ、今後も積極的に参加していくことを表明。

○インドネシア

経済危機が原子力開発の進展に打撃を与えたこと、その中で社会的ニーズの高い農業、医学、産業の利用分野での活動の重点化が進められていること、特に、加速器の産業・医学利用のための複合研究所がジョグジャカルタに設置される計画であることを報告。また、新原子力法に基づき、原子力庁（BATAN）から分離して、原子力規制庁（BAPETEN）が設立されたこと、原子力発電の導入に向けては、人的資源の維持・向上を中心とする基盤強化のための活動取り組みを継続する方針を紹介。アジア地域協力に今後も参加することを表明。

○韓国

原子力発電は経済性があり、地球温暖化防止に貢献し得ることを主張。アジア地域原子力協力は平和利用推進に不可欠であり、技術情報及び経験の交換は人材養成に大きく貢献するものであり、更なる活性化を期待。韓国は積極的な役割を果たしていくことを表明し、2002年の「原子力協力フォーラム」については韓国での開催を提案。

○マレーシア

豊富なエネルギー源に恵まれ、これまで種々の原子力協力活動に積極的に参加してきたことは、現在までの非原子力発電分野における科学技術開発レベルの向上に大きく貢献したこと、協力体制再編についての日本提案を支持し、今後もアジア地域協力等のフレームワークを通じて、国際協力に積極的に取り組む意向を表明。また、途上国間協力への貢献の意志、民間セクターを含めた協力の発展についても期待を表明。

○フィリピン

生活の質の向上を図るという地域共通の目的を確認しつつ、アジア地域協力活動におけるフィリピンの活動を紹介。P A活動（スピーカーズ・ビューローの設置を含む）、人材養成の重要性や地域の研究炉を利用した若手科学者による共同実験の提案について言及。これまで地域協力活動を高く評価し、協力体制の再編についての日本提案を支持すると共に、今後も積極的に取り組む意向を表明。

○タイ

科学技術は国家発展の礎であり、その中でも原子力科学は基礎科学の発展に重要との認識を示すと共に、平和利用と安全を目指してきたタイにおける原子力開発の状況（オンガラクの研究炉計画を含む）と国際協力活動を紹介。原子力は、エネルギーミックス、地球温暖化防止のために有効としつつも、廃棄物管理の問題点について地球規模のコンセンサスの必要性を指摘。そのプロセスとしての情報提供の重要性にも言及。アジア地域協力を高く評価し、協力体制の再編についての日本提案を支持するとともに、2000年の「原子力協力フォーラム」のタイ開催の意志を表明。

○ベトナム

ドイモイ政策による工業化、近代化にともない、放射線・アイソトープの産業、医学、農業、環境分野での利用が大いに進展している現状を紹介。原子力発電開発については、最近の調査研究により、2010～12年頃に最初の原子力発電の導入建設が勧告されたことを発表。原子力科学技術の平和利用には国際協力は不可欠と位置づけ、アジア地域協力については、既存のIAEA等の活動を補完するものとして高く評価。将来の協力活動に対する大きな期待と積極的な参加を表明。

第10回アジア地域原子力協力国際会議

サマリー (仮訳)

平成11年3月10日

第10回アジア地域原子力協力国際会議は、1999年3月10日に東京で開催された。オーストラリア、中国、インドネシア、日本、韓国、マレーシア、フィリピン、タイ及びヴィエトナムの各国から代表が参加し、オブザーバーとしてIAEAの代表が参加した。各国は過去10年の良好な成果を考慮し、将来へ向けた主な目標を確認し、また、本枠組みの発展が本会合の主なテーマであることを確認した。

1. これまでの協力成果と今後の協力の展開について

参加国はICNCAの枠組み下の地域協力が、過去10年間着実に進展をしたことを確認した。全ての参加国は核不拡散条約に加盟している。原子力科学技術の協力活動は、地域に社会経済的な利益をもたらす共通課題に取り組む、重要かつ建設的な方法であり、将来にわたって利益をもたらすものである。

ここでの意見交換を踏まえ、

(1) 他にも成果があるが、いくつかの典型的な協力活動では以下の成果を得た。

- ・一定範囲の環境条件下で優れた生産性をもつ豆や穀物などの新しい多様な植物(の品種改良)
- ・主要な発生源の特定によって環境改善の手段が容易となるような主要都市における大気汚染の追跡のために改良された分析手法を開発し、採用したこと
- ・子宮頸部癌の放射線治療の合同試験と標準プロトコルの開発
- ・研究炉の運転と安全及び新物質研究のための研究炉利用における要員の訓練

(2) 活動の進捗状況を監視することや活動後のレビュー、アセスメントが重要であることに鑑み、参加国は本年の終わりまでに、以下の既存の6分野についてレビューをすることとした。

- ・研究炉利用
- ・農業及び医学分野での放射線及び放射性同位元素(RI)の利用
- ・原子力のパブリック・アクセプタンス
- ・放射性廃棄物管理
- ・原子力安全文化

(3) 本地域協力の枠組みの下で、将来にわたり原子力の平和利用から最大限の利益を享受するために、次の原則が重要である。

- ・各国における国情、原子力科学技術の開発利用段階を考慮した長期的な協力
- ・国際機関等の既存の枠組みの活用と連携(既存の活動との重複を回避すること)
- ・人材養成及び研究・技術のための基盤の重点的な整備
- ・安全確保のための知識とノウハウの拡充
- ・積極的な情報発信による透明性向上

- (4) 本枠組み下における将来の協力活動の展開については、効果的かつ柔軟に共通課題に取り組み、相互に重要な目的を達成するために、研究交流や研究協力等についての対話を補完するネットワークの構築が重要である。そのためには、活動の期間やマイルストーン、結果の評価及び協力活動成果の報道を適正に考慮し、十分に計画を練りつつ活動を進めることが重要である。将来への移行において、参加国は積極的に参加し、その自立的かつ協力的な貢献を通じて、相互に重要な目的を達成することを確認した。
- (5) 地域内で人材養成の知識を分かち合い、関連分野における更なる人材養成手法を検討するために、日本の主催による人材養成セミナーを1999年度中に開催する。

2. 今後の会議の進め方について

参加国はアジア地域原子力協力国際会議の発展を支援することに合意した。本枠組みの発展によって、原子力平和利用に関する地域協力は、アジアでの相互に重要な問題に取り組んでいく。

政策対話及び情報交換による利益、地域協力活動の利益に配慮し、

- (1) 次回会議より、名称を「アジア原子力協力フォーラム」に変更する。
- (2) 「アジア原子力協力フォーラム」は、日本と日本以外の参加国において1年おきに開催する。
- (3) 第1回の「アジア原子力協力フォーラム」は、2000年秋にタイにおいて、タイの科学技術環境省と日本の原子力委員会の共催として開催する。
- フォーラムは、大臣レベルまたは各国の状況に応じたその他のハイレベルの代表による公開の会議、及び関係する上級行政官の会合で構成される。また、関係施設への視察もある。韓国は2002年のフォーラムをホストすることを表明した。
- (4) 参加国は、現状と同様とする。
- (5) 活動の緊密な連携と重複を避けるために、IAEAには継続してオブザーバー参加を要請する。
- (6) 本枠組みの下での地域原子力協力活動の充実化を図るため、参加各国は1999年8月までに国の活動を促進するために「コーディネーター」と「プロジェクト・リーダー」を登録する。また、2000年3月に東京で、コーディネーターが集まり計画策定と活動のレビュー及び政策検討用文書の作成を行う「コーディネーター・ミーティング」を開催する。
- (7) 各国は、自国の「コーディネーター」の活動を支援する仕組みを整備することの重要性を認識した。
- 日本は、1999年6月頃に、日本の「コーディネーター」と「プロジェクト・リーダー」の活動を支援する「コーディネーター・オフィス」を設置することを明らかにした。そのオフィスは、本枠組み下での協力活動を補助すべく、要請に応じて、他の参加国の「コーディネーター」を支援する。

「第10回アジア地域原子力協力国際会議」プログラム
—アジア地域原子力協力の新しい展開—

1. 日時：平成11年3月10日(水)
2. 場所：日本海運倶楽部 国際会議場(東京・平河町)
 * 11日(木)・12日(金)は作業部会(於:赤坂プリンスホテル)
3. 主催：原子力委員会
4. 後援：科学技術庁、外務省、文部省、厚生省、農林水産省、通商産業省
5. 協賛：日本原子力研究所、核燃料サイクル開発機構、国際協力事業団
 (社)日本原子力産業会議、(社)日本電機工業会
6. 使用言語：日英同時通訳

平成11年3月10日(水)

9:00-9:30 参加登録

9:30-10:10

【開会セッション】

議長：依田 直 原子力委員

(9:30-9:35)

主催者挨拶 有馬 朗人 国務大臣 科学技術庁長官、原子力委員長

(9:35-9:55)

記念講演 「第10回アジア地域原子力協力国際会議を迎えて」

村田 浩 (社)日本原子力産業会議副会長

(9:55-10:10)

特別講演 「持続可能な開発のための原子力技術：アジア・太平洋地域におけるIAEAの活動のハイライト」

町 末男 国際原子力機関(IAEA)事務次長 (原子力科学・応用局担当)

10:10-14:30

【講演セッション】

(10:10-11:05)

(その1)議長：外門 一直 電気事業連合会副会長

(10:10-10:25) カン・チャンヒ(姜 昌熙) 韓国科学技術大臣

「韓国における原子力産業の現状と将来のアジア原子力協力」

(10:25-10:40) ロウ・ヒエンディン マレーシア科学技術環境大臣

「原子力国際協力活動：効果と今後の見通し」

(10:40-10:55) レオポルド・ラザティン フィリピン科学技術省次官(地域活動担当)

「フィリピンにおける原子力技術開発と地域協力への期待」

(10:55-11:05) 議長まとめ

< 11:05-11:20 休憩 >

(11:20-12:15)

(その2)議長：篠崎 昭彦 経済団体連合会資源・エネルギー対策委員長

(11:20-11:35) スウィット・クンキティ タイ副首相兼科学技術環境大臣

「タイにおける原子力開発と利用」

(11:35-11:50) ホアン・ヴァン・ファイ ベトナム科学技術環境副大臣

「ベトナムにおける原子力平和利用の主要動向」

(11:50-12:05) ヘレン・ガーネット オーストラリア原子力科学技術機構理事長

「オーストラリアの原子力科学技術におけるイニシアティブと地域協力」

(12:05-12:15) 議長まとめ

< 12:15-13:30 昼食 >

(13:30-14:30)

(その3)議長：松浦 祥次郎 日本原子力研究所理事長

(13:30-13:45) リ・トンフィ(李 東暉) 中国国家原子能機構副会長

「中国における原子力平和利用開発と国際協力」

(13:45-14:00) ズハール インドネシア研究技術担当国務大臣

「インドネシアにおける現在と将来の経済開発に果たす原子力科学技術の役割」

(14:00-14:15) 藤家 洋一 原子力委員長代理

「21世紀社会における原子力開発とアジア協力」

(14:15-14:30) 議長まとめ

14:30-17:45

【意見交換セッション】

14:30-16:35

(その1)：これまでの協力成果と今後の協力の展開について

議長：植松 邦彦 核燃料サイクル開発機構特別技術参与

(14:30-15:00) 基調講演「10年間の協力成果と今後の展望」

田畑 米穂 東京大学名誉教授

(15:00-15:35) 意見交換

(15:35-15:50) 発表「原子力人材養成に関するアジア地域協力の提案」

佐竹 宏文 日本原子力研究所理事

(15:50-16:25) 意見交換

(16:25-16:35) 議長サマリー

< 16:35-16:55 休憩 >

16:55-17:45

(その2)：今後の会議の進め方について

議長：渡藤 哲也 原子力委員

(16:55-17:10) 発表「日本からの提案」

瀬山賢治 科学技術庁原子力局国際協力・保障措置課長

(17:10-17:35) 意見交換

(17:35-17:45) 議長サマリー

17:45-17:50

【閉会挨拶】藤家洋一 原子力委員長代理

17:50-18:20 プレス会見

18:30-19:30 レセプション

(原子力委員会および協賛機関共催、於日本海運倶楽部 4階レストラン)

以上

第10回アジア地域原子力協力国際会議における主な海外参加者

○オーストラリア

Prof. Helen M. Garnett	ヘレン・M・ガナーネット	オーストラリア原子力科学技術機構 理事長
Mr. Garth L. Hunt	ガース・L・ハント	在京豪大使館参事官
Mr. Allan Gray	アラン・グレイ	在京豪大使館参事官(産業、科学、 資源担当)

○中国

Mr. Li Donghui	リ・トンフイ	中国国家原子能機構副会長
Mr. Deng Ge	トン・ケー	中国国家原子能機構国際合作司 副処長
Mr. Xu Ping	シュー・ピン	中国国家原子能機構原子力発電 管理処長

○インドネシア

Prof. Ir. Zuhul	イル・ス・ハル	インドネシア研究・技術國務大臣
Mr. Iyos R. Subki	イヨス・R・スブキ	インドネシア原子力庁長官
Dr. Bakri Arbie	バクリ・アربية	インドネシア原子力庁次官

○韓国

Mr. Kang Chang Hee	カン・チャンヒ	韓国科学技術大臣
Dr. Kim Yong Hwan	キム・ヨンフアン	韓国科学技術部原子力政策局長
Mr. Oh Kyu Jin	オ・キュジン	韓国科学技術部原子力協力課長 補佐

○マレーシア

Mr. Datuk Law Hieng Ding	ロウ・ヒエンティン	マレーシア科学技術環境大臣
Dr. Ahmad Sobri Hj. Hashim	アハマト・ソブリ・ハジ・ハシム	マレーシア原子力庁長官
Dr. Daud Mohamad	ダウド・モハマト	マレーシア原子力庁次官

○フィリピン

Dr. Leopold LH. Lazatin	レオポルト・LH・ラザティン	フィリピン科学技術省次官
Dr. Alumanda M. de la Rosa	アルマンダ・M・デラロサ	フィリピン原子力研究所所長代理
Ms. Pilar C. Roceles	ピラール・C・ロセレス	フィリピン原子力研究所技術協力部長

○タイ

Dr. Suwit Khunkitti	スウィット・クンキティ	タイ副首相、科学技術環境大臣
Dr. Manoon Aramrattana	マヌーン・アラムラタナ	タイ原子力庁次官
Mr. Poonsuk Pongpat	プーンサク・ポンパット	タイ原子力庁保健物理部長

○ヴェトナム

Prof. Hoang Van Huay	ホアン・ヴァン・フイ	ヴェトナム科学技術環境副大臣
Prof. Tran Huu Phat	チャン・フー・ファット	ヴェトナム原子力委員会委員長
Dr. Vuong Huu Tan	グオン・フー・タン	ヴェトナム原子力委員会副委員長

○国際原子力機関 (IAEA) [オブザーバー参加]

Dr. Sueo Machi	町 末男	IAEA事務次長 (原子力科学・応用局担当)
----------------	------	---------------------------